～ふくしまの歴史と文化財～

文 字 摺 通 信

臨時増刊号
２０２６年　３月１８日
発行:文字摺歴史文化社

＝緊急渡部一磨さんレポート＝

幻の山口入山の磨崖百庚申を追え

初めまして。福島県立福島高等学校を先日卒業し、四月からは筑波大学人文・文化学群人文学類に進学する予定の、渡部一磨と申します。今回は、福島市山口の入山で、福島市の記録にも一切痕跡がなく、その所在地すらも半世紀近く不明だった、磨崖の百庚申を発見したため、そのお話を書きたいと思います。

私は 2026 年 2 月 5 日に行われた、もちずり学習センターでの講演会で、福島市宮畑じょーもぴあの堀江格さんから、福島市山口入山の磨崖百庚申（以後、「磨崖百庚申」とする）の存在をご教示いただいて以来、「磨崖百庚申」の捜索を続けてきました。合計三度調査を行い、先日、その「磨崖百庚申」を発見することに成功しました。前述の通り、この「磨崖百庚申」は福島市の記録には一切登場せず、文化財の調査なども行われてこず、さらに、その所在地も不明になってしまったものなのです。

調査方法としては、全国の地番表をみて、かつての参道の痕跡を探したり、赤色立体地図を見て目星をつけたりと、山野を駆け巡る以外の方法も行ってきましたが、結局どれも目立った功績をあげることは叶いませんでした。

では、どうやって発見したのか。それはほぼ山勘です。堀江さんが安洞院さんから聞き取った情報で、「磨崖百庚申」は安洞院近くの清水観音堂付近にある。ということだけは判明していました。そのため二度の調査すべてが、清水観音堂での調査なのですが、三度目の調査の時は、その逆をしてみよう。とふと思ったのです。清水観音堂の参道入口は、砂利で舗装された道路にあり、その反対側は巨大で急斜面の山です。その巨大で急斜面の山を登ってみよう。と思ったのです。道のない、ただただ急斜面を登る作業は非常に過酷でしたが、登ってみると、なんと、岩肌が露